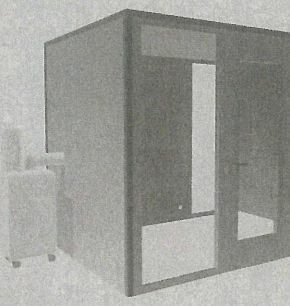
日刊 産業新聞
Japan Metal Bulletin
2021年（令和3年）6月4日（金）
第20210号
Since1936

日刊 産業新聞 Japan Metal Bulletin 2021年（令和3年） 6月4日

西日本ネットワーク
中国・四国・九州・沖縄
JAPAN METAL BULLETIN Local Network
福岡支局 FUKUOKA
〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3丁目23番22号
シティ22ビル
TEL (092) 472－3887 FAX (092) 472－38

加工の総合商社、日創プロニティ（本社＝福岡市、石田徹社長）は熱中症対策ブース「アンチヒートブース」を開発し、1日から発売した。組み立てと解体が容易で工場内の任意の場所に設置でき、スポットクーラーを用いることで熱中症の疑いのある作業員の一時救護スペースとして活用できる。1－2人用と3－4人用、6－7人用のサイズを用意するが、パネルの組み合わせで特注サイズも可能となっている。目標年間販売台数は現在検討中。



アンチヒートブースCGイメージ

ームにガルバリウム鋼板を、カバー・幅木にカラー鋼板を使用。壁面は表面材にカラー鋼板を用いた断熱パネルサイズに応じて1－2人用（900ミリ×1800ミリ）、3－4人用（1800×1800）、6－7人用（1800×2700）の3種類をベースとする。パネルの組み合せによ

生産設備レイアウトの変更が発生しても、解体および移設が容易で、工場レイアウトの状況に応じて窓とドアの位置を変えられる。

スポットクーラーは別売りだが、同社によると所持している工場が多いため、ブースのみの購入が可能。また、広い空間での使用するよう設計されているた

新理事長登場

大分県鉄構工業会

清松 芳夫氏

組織の若返りに注力

体調不良で長期入院する前理事長の神崎隆一・神崎鉄工社長の後任として昨年8月から理事長代行を務め、今年3月の理事会で6代目理事長に就任。大分県鉄構工業会は1972年に28社でスタート。79年に法人認可。大分、別府・杵築、宇佐・高田、中津、県南の5地区に支部を置き、現在は24社が加盟。全国鉄構工業協会の「経営力向上研修会」のベースとなる研修会を先駆けて実施するなど先進的な取り組みを行ってきた。以前から延期せざるを得ない状況が続き会合もウェブ中心。「コロナの最大の症状は人と人を分断させ、孤立させること」とした上で「寄り添って分かち合えるのは人間のみ。対面だからこそ腹を割って話せることがある」と話し、きた収益面でも厳しさが増す。先行きについて「今年の夏ごろには潜在的需要が出てくると思ったが、足元の材料高騰で見合わせる動きもあるのではないか」と懸念するが、「木材も高騰する中、案件があれば工期も短い鉄骨が優位」とも語る。

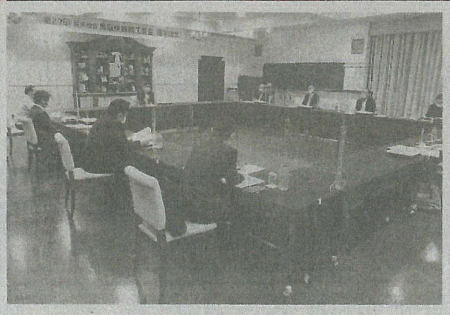
（田島 佑一）

の課題に組織の若返りを挙げ、青年部会の活性化などに注力したい考え。

ただ、新型コロナウイルス禍で多くの活動は中止・リアルとウェブのハイブリッド形式での実施を検討する。

足元の状況については「Hグレードは手持ちがあるが、Mグレード以下は少ない」と話すほか、鉄骨単価の下落や材料高騰などリーマン・ショックから徐々に立ち直って

▽清松芳夫（きよまつ・よしお）氏＝86年大分大院修了後、三井造船入社。92年7月、清松総合鉄工入社、13年2月から社長。県工業会では13年から副理事長を務め、20年8月理事長代行。21年3月理事長。同年全構協九州支部理事。61年8月10日生まれ。



鳥取鉄構工業会

「次世代の会」を

鳥取県鉄構工業会（理事長＝福田秀章、大照建工社長）は5月28日ホテル会を